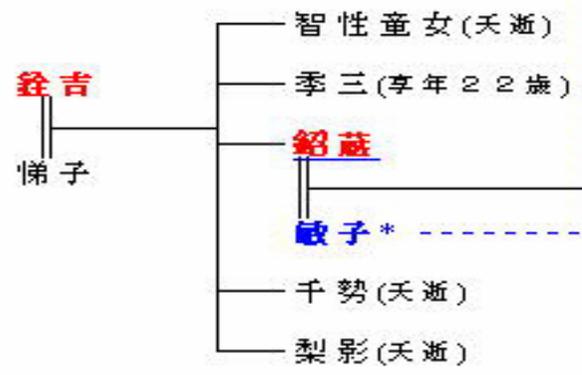
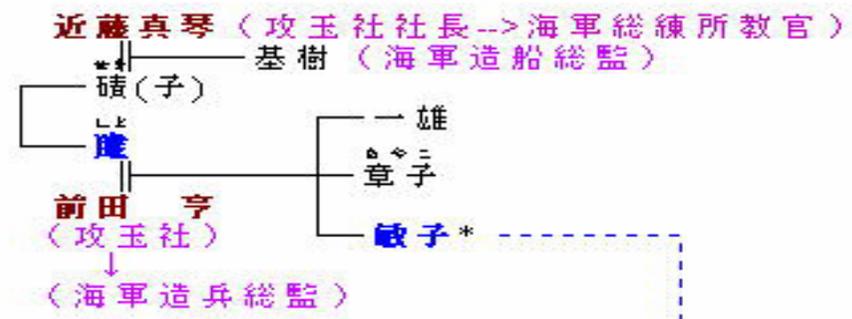


有坂家 - - - 私のルーツ探し

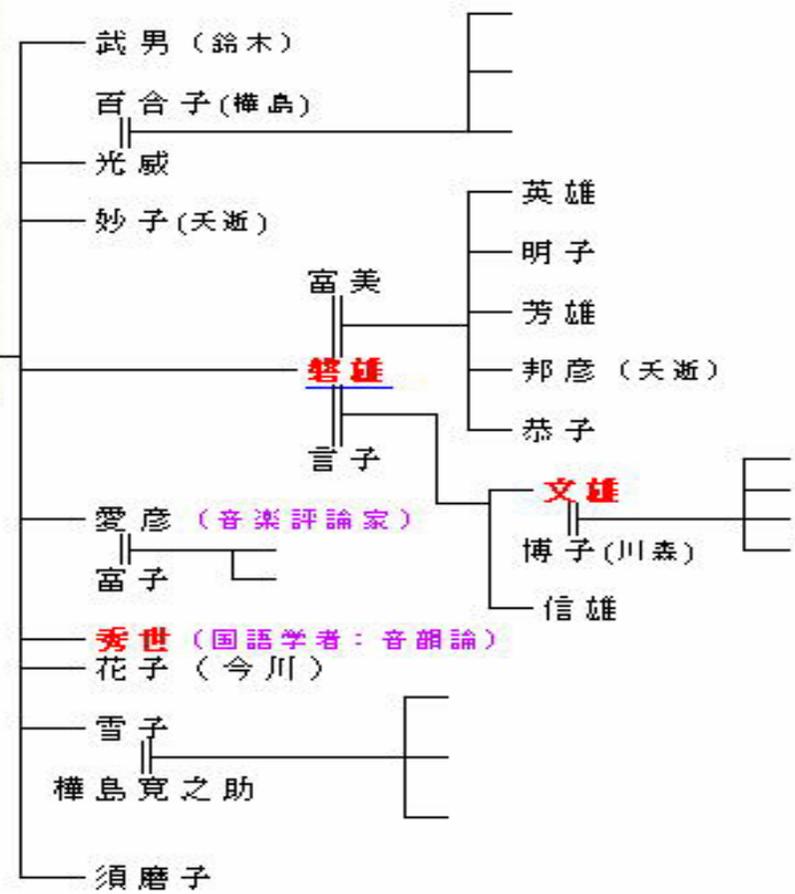
横浜市栄区小菅ヶ谷町

有坂 文雄

有坂家系図



祖父：紹蔵 (海軍造兵中將・東京帝大教授)
 父：磐雄 (海軍大佐)



祖父海軍奉職歴

明治二十九年七月	第一高等中学校へ入学
明治二十年七月	今度卒業
明治十九年七月	帝國大學二科大學へ入学
明治十八年七月	
明治十七年七月	
明治十六年七月	
明治十五年七月	
明治十四年七月	
明治十三年七月	
明治十二年七月	
明治十一年七月	
明治十年七月	
明治九年七月	
明治八年七月	
明治七年七月	
明治六年七月	
明治五年七月	
明治四年七月	
明治三年七月	
明治二年七月	
明治元年七月	

出生地名 東京市牛込赤城下片町
 及七誕辰 明治戊辰年一月十一日生

小日向絵図



東京市牛込赤城下片町
 有坂仁三郎・理十郎

兵器沿革図説 有坂鋁蔵著 (原書房 = 復刻版)

(「兵器考」: 学士院賞)

中村義彦氏: 銚吉についての記述

銚吉は江川太郎左右衛門の配下? → 誤り

仲田正之氏(「江川旦庵(太郎左右衛門)」の著者)

樋口雄彦氏(沼津明治資料館)

「銚吉」を静岡藩職員録中に見いだす。

沼津郡方並(明治2年) → 郡方(明治3年)

沼津	郡政方役々	
權少參事	郡政方	石川周二
郡方役	村山五三郎	
郡方	鈴木孫四郎	
	浅野亮太郎	
	下毒市藏	
	根立 榮	
同並	前嶋平十郎	
	木村樹彦	
	有坂詮吉	

埼玉県史調査報告分限帳集 (昭和62年3月発行より)

【文化十年普請役分限帳】

寛政三亥年(1791) 四月養父有坂弥右衛門家督被下置、
小普請組より同年十二月御留守同心被 仰付、
同七卯年五月御代官伊奈友之助手附被 仰付、
同十年午年十月郡代組附見習被 仰付、
同十一未年二月助勤被 仰付、
享和三亥年十二月郡代組附被 仰付、
文化二丑年(1831) 十二月御普請役被 仰付候

高三拾俵三人扶持

本国 上野
生国 武蔵

内 拾 俵 御足高
壹人扶持 御足扶持

父有坂弥右衛門

有坂 勝三郎
酉四十四歳(1813)

有坂弥右衛門



有坂勝三郎
(養子)

拝領屋敷小日向馬場
先片町七軒町住宅仕候

江戸幕府勘定所史料 - - 会計便覧

- 1839年 この年既に理十郎は四川用水方普請役
(天保10年)
- 1846年 有坂理十郎 御普請役(四川用水方)
(弘化3年)
- 1847年 有坂理十郎 御普請役(四川用水方)
(弘化4年)
- 1849年 有坂理十郎 御普請役(四川用水方)
(嘉永2年) 有坂 銚吉 御普請役見習(四川用水方) (銚吉14歳)
- 1850年 有坂理十郎 御普請役(四川用水方)
(嘉永3年) 有坂 銚吉 御普請役見習(四川用水方)
- 1856年 有坂理十郎 御普請役(四川用水方)
(安政3年) 有坂 銚吉 御普請役見習(御勘定所詰) (銚吉19歳)
- 1857年 有坂 銚吉 吟味方下役、御普請役見習(四川用水方)
(安政4年) 有坂理十郎 御普請役(四川用水方)
- 1859年 有坂理十郎 御普請役(四川用水方)
(安政6年) 有坂 銚吉 御普請役見習(24歳)

有坂理十郎



有坂銚吉

cf. 前田匡一郎著:
「駿遠に移住した
徳川家臣団」

理十郎:小日向馬場七軒町

-
- 1853年 8月、理十郎、[回状\(取手市史、p.385\)](#)
(嘉永6年)
- 1854年 7月、理十郎、[回状\(取手市史、p.386\)](#)

藪原敏吏氏

「江戸幕臣人名事典(二)」より(新人物往来社)(p.54)

河合順輔 亥歳(文久三年、1863)39歳(従って1824年生まれ)

(家禄)高40俵3人扶持、本国生国共武蔵

養祖父河合武左衛門死(役職)表御台所人相勤申候

養父 河合録左衛門死 表御台所人相勤申候

実祖父有坂勝三郎死 四川用水方御普請役相勤申候

実父 有坂理十郎 四川用水方御普請役相勤罷在候

順輔履歴:嘉永七寅年(1854)一二月養父跡式被下置、直に表御台所人被仰付

安政六未年(1859)四月長崎奉行支配書物御用出役(仮の役職)

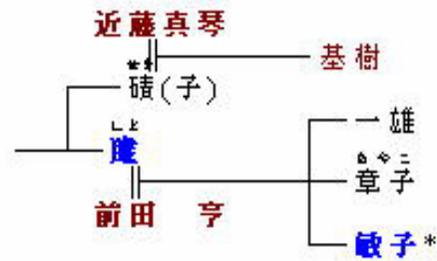
被仰付

文久三亥年(1863)四月長崎奉行支配調役並出役被仰付候

勝三郎 - 理十郎 - 河合順輔
理十郎 - 銚吉 - 紹蔵

有坂弥右衛門 - 勝三郎 - 理十郎 - 銚吉 - 紹蔵 - 磐雄 - 文雄

有坂系図



有坂
弥右衛門

勝三郎

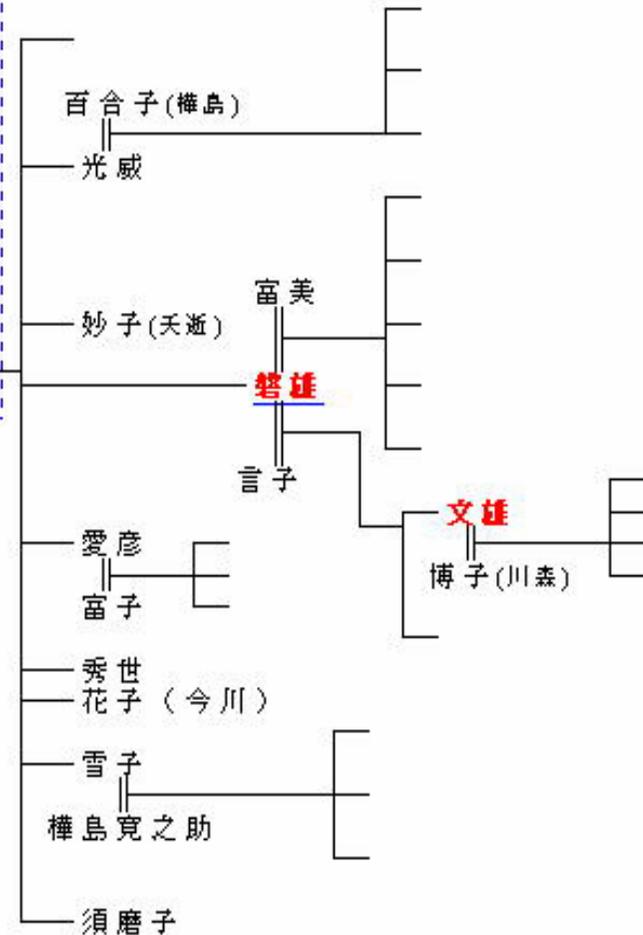
理十郎

銚吉

梯子

- 順輔(河合)
- 智性童女(天逝)
- 季三(享年22歳)
- 紹蔵
- 敏子*
- 千勢(天逝)
- 梨影(天逝)

- 勝三郎** : 四川用水方普請役
- 理十郎** : 四川用水方普請役
- 銚吉** : 四川用水方普請役見習い - > 郡方



有坂勝三郎

明和五年（1768）頃の生まれ

弥右衛門の養子

寛政三年（1791）四月、**弥右衛門から家督を相続**し、譜代席となる。小普請組。

同年十二月 **御留守居同心**、江戸城の中の番所勤め。

同七年 **代官伊奈友之助の手付け**。

享和三年（1803）**郡代組附**（郡代屋敷の事務官）。

文化二年（1805）**普請役**。

本国上野、生国武蔵。先祖の出身地は上野と思われる。

高三拾俵三人扶持、有坂家の代々相続する家禄は二拾俵二人扶持。

文化六年（一八〇九）朝比奈氏との相對替で**内藤新宿（花園神社前）から**

小日向（先片町七軒町）に転居。（御府内沿革図書（「地図で見る新宿区の移り変わり」所収、牛込編252頁）による。）

**普請役：勘定所支配 勘定書詰普請役
四川用水方普請役
在方普請役**

有坂理十郎

四川用水方普請役（天保一〇年（一八三九）から弘化四年（一八四七）までは理十郎のみ

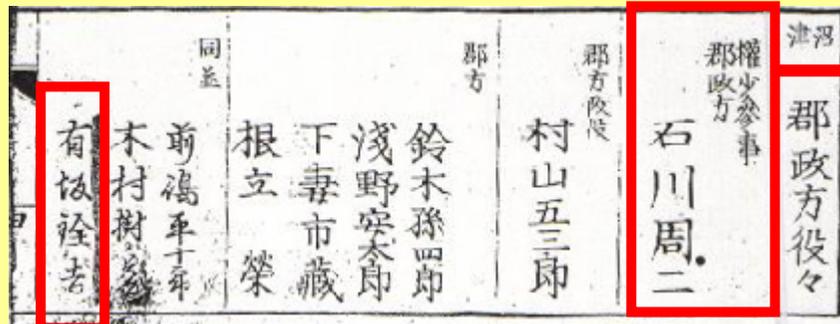
嘉永二年（一八四九）から安政六年（一八五九）までは普請役見習の鑑吉と共に記載されている。

栢市史：何回かにわたって**住民に回状を出した記録**が残っている。

理十郎は特に**小貝川担当であったと推測される**。

静岡藩職員録

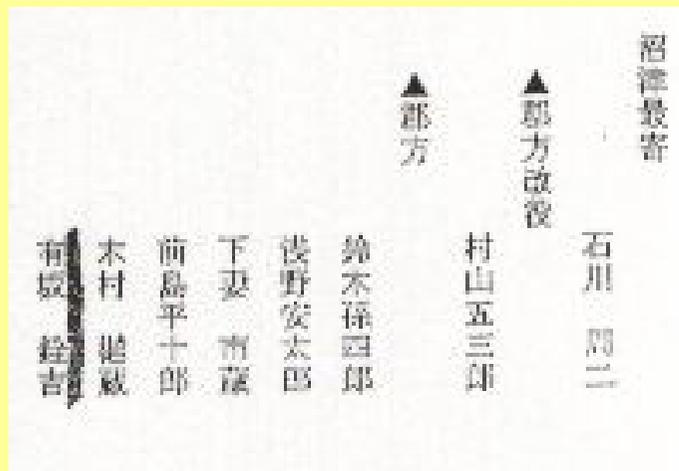
明治2年



石川周二 = 勘定所詰普請役
文久二年旗本、御天守番之頭に昇進

有坂銓吉 = 四川用水方普請役
は石川周二の三男の季三を養子に迎えた。

明治3年

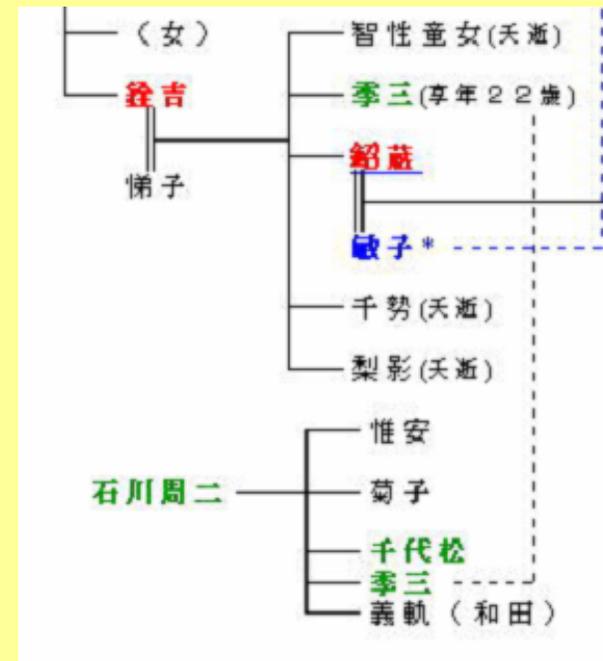


石川千代松 = 季三の兄

モース (Edward S. Morse) の弟子。

東京帝国大学農科大学教授鋳蔵は千代松に連れられてしばしモースを訪れている。

鋳蔵と季三が共に東大予備門に通った記録あり。



有坂銚吉

四川用水方普請役見習

「**日下恵**」(明治二年)

駿東郡的場村(現在の清水町的場)名主をつとめた豪農贅川家に伝来した古文書
静岡藩からの布達を名主が書き留めた帳面。

明治元年十一月「駿河地方御姓名高附」

駿河国が二十に分割され各担当の「地方御掛り」によって支配された。

飯田藤次郎・有坂銚吉・羽生田直三郎:駿東郡八幡を本拠として高10,867
石6斗4升5勺を担当支配。

普請役だったという幕府時代の経歴を貰われて、黄瀬川に接し、橋や東海
道の往還をかかえる支配地を担当することになった?

前田匡一郎著「駿遠へ移住した徳川家臣団」

明治二年**静岡藩沼津郡方並**

同三年**静岡藩沼津郡方**

同五年六月に**宮内省に出仕**。**宮内省十三等出仕**、同年八年には任**宮内省中録**、

同九年**宮内省九等出仕**、同十年**宮内省四等属**。

明治14年2月12日依願退職、七月二十三日死去。

東京掃苔録(明治初期の著名人の墓地をリストした書物)

有坂菱湾(書家)名詮吉、明治一四年七月二八日没

安政文雅人名録:銚吉が書家として記載されている。

赤城神社誌(大正十一年十月十五日発行):銚吉は同社本殿の額に「**赤城社**」と揮毫した。
(戦災で焼け、額は残っていない。)



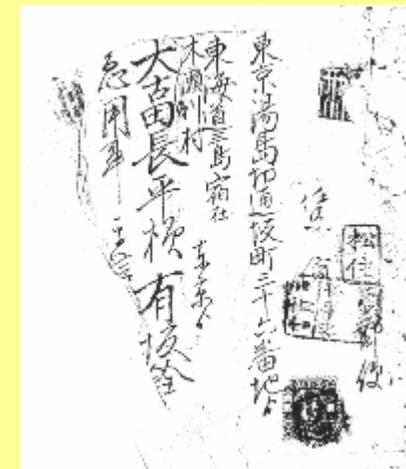
（有坂鋁蔵著「象の欠伸」「幼時の家」より）

先づ南、…紫紺色の香貫山が牛の背のやうに見えて、…北側には池があつて、夏の初には、白や紫の燕子花が咲く。…雪を載いた紫の富士が、見上げるやうにぬつと姿を現はして居る。遠く東西に曳く裾野に、森や野や村落が豆のやうに見える。

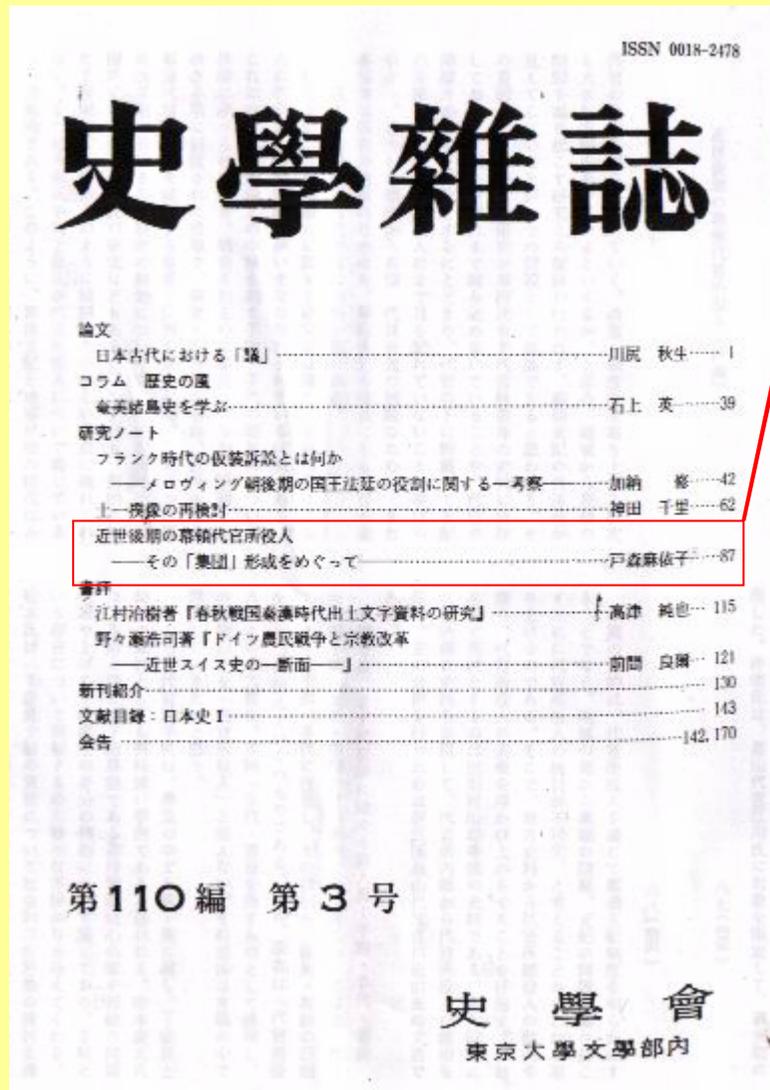
或る日兄が下男に連れられて、愛鷹山へ馬追を見に行つたことがあつた。…日は既に西に落ちかかつて、紫に見えた富士や裾野は、次第に黒すんで来た。

（石川千代松著「老科学者の手記」 p.12）

「八幡村の陣屋にいた頃、私は漢学を小林という先生に教わり、習字を有坂先生（今の工学博士有坂鋁蔵君の御尊父）に、又英語を三谷と云う先生と、沼津に居られた乙骨先生（太郎乙）とに教わつたのである。」



（明治5年）



戸森麻衣子氏「近世後期の幕僚代官所役人 - その「集団」形成をめぐって -」(史学雑誌 第110編第3号所収)

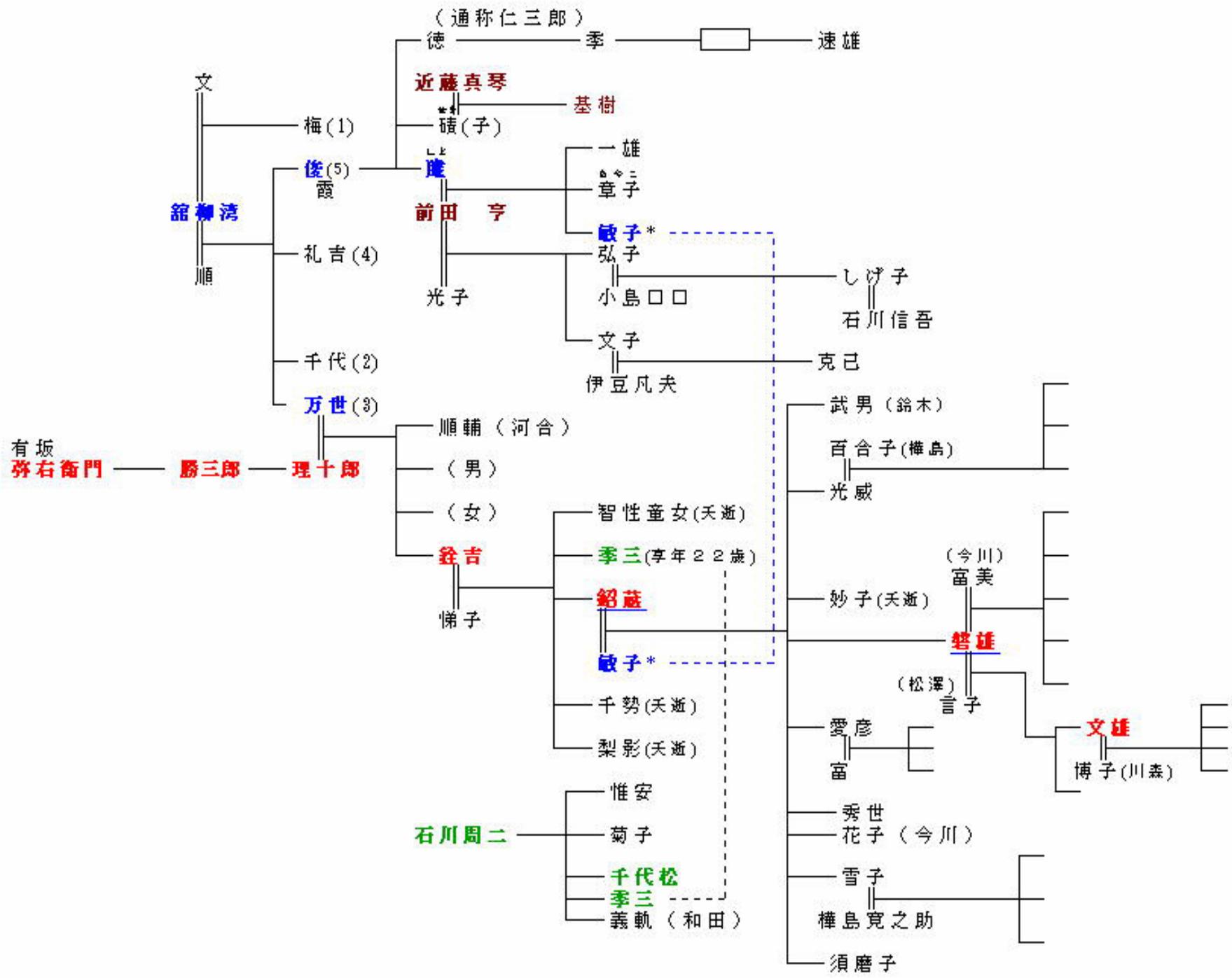
文政5年**三女万世 有坂理十郎に嫁ぐ**。
理十郎は館柳湾(雄次郎)の三女万世を娶る。
三男一女をもうける。

館 柳湾<宝暦12(1762)~天保15(1844)
江戸の漢詩人、代官所手付を務めた。

巻 菱湖
書家。

銚吉:書家

菱湾 = 菱湖 + 柳湾 ?



モース (Edward Sylvester Morse: 1838.6.18-1925.12.20)

大森貝塚発見者

お雇い外国人教師 → 東京帝国大学動物学教授

進化論を日本にもたらした。

「日本その日その日」(東洋文庫 3 巻: Japan Day by Day)

江ノ島に臨海実験所を作る。

長年 Salem の Peabody Museum の所長を務める。

石川千代松 (1861.1.8-1936.1.27)

モースの弟子。後に東京帝国大学農科大学教授

日本に進化論を広める。

有坂鋁蔵 (1868.1.11-1941.1.19)

弥生式土器の発見 (15 歳)

海軍造兵中将、呉工廠長

東京帝国大学教授 (造兵)

海軍技術會議審議録(明治28年12月24日)

尙彈藥ヲ増加スルノ猶餘アラハ速射砲彈藥ヲ増加スルコト其ノ種類ニ於テハ設計上ノ便宜ニ任ス
 電氣燈ノ位置ハ後部「ブリヂ」ノ兩端ニ備付クヘキ速射砲ト其ノ位置ヲ交換スルコト
 右決議ス

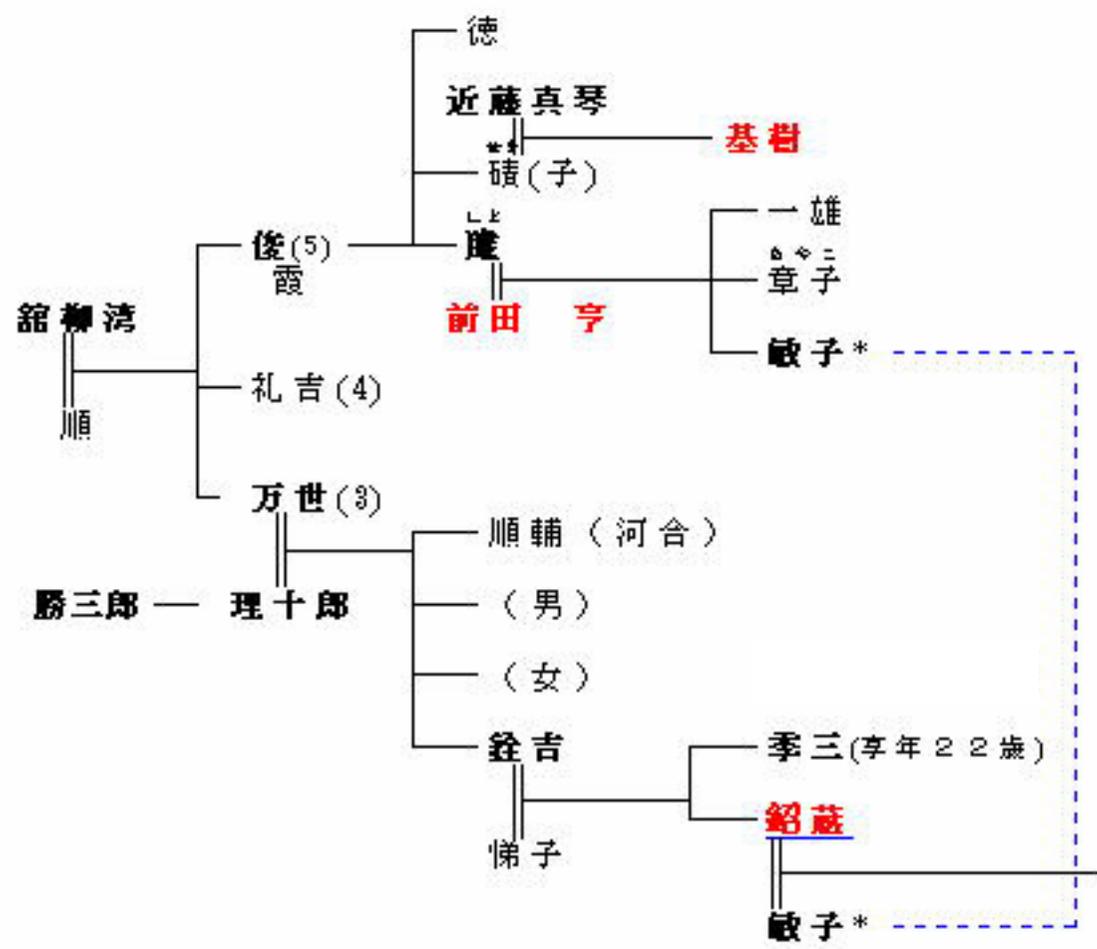
技會議甲第二七號議按議事筆記録(軍艦扶桑兵)
 明治二十八年十二月二十四日開會

議 員 長	議 席	議 員	議 席
東郷平八郎	議 席	一 番	海軍少將
原田宗助	議 席	二 番	海軍大技監
佐藤左衛門	議 席	三 番	全
前田 亨	議 席	四 番	海軍大佐
伊集院五郎	議 席	五 番	海軍機關少監
兒玉利賢	議 席	六 番	海軍少佐
新島 一 郎	議 席	七 番	海軍少技監
大木 治 吉	議 席	八 番	海軍少佐
島 村 速 雄	議 席	九 番	全
池 端 清 勇	議 席	十 番	全
高 桑 勇	議 席	議 員	議 席

議 員 長	議 席	議 員	議 席
澤 鑑 之 丞	議 席	一 番	海軍少技監
成 田 勝 郎	議 席	二 番	海軍少佐
岩 本 耕 作	議 席	三 番	海軍大尉
西 紳 六 郎	議 席	四 番	全
莊 司 義 基	議 席	五 番	全
小 田 喜 代 藏	議 席	六 番	全
山 縣 文 藏	議 席	七 番	全
築 山 清 智	議 席	八 番	全
小 幡 文 三 郎	議 席	九 番	海軍大技士
近 藤 基 樹	議 席	十 番	全
茂 岡 滿 俊	議 席	廿一 番	全
有 坂 紹 藏	議 席	廿二 番	海軍少技士

近藤真琴の長男

午前十時着席
 議長 是レヨリ軍艦扶桑兵裝改正ノ會議ヲ開ク可シ説明ハ三番議員五番議員ヲ以テ致サス可シ
 三番前 説明致シテ宜シキヤ
 議長 宜シ
 三番前 此ノ扶桑ノ兵裝改正ノ件ハ横須賀鎮守府司令長官ヨリ上申ニナリタルノガ元デアリテ此參考書



謝 辞

慶谷壽信(東京都立大学名誉教授)
榆井範正(家系図学会事務局長)
小川恭一(歴史家)
仲田正之(沼津高校教諭)
樋口雄彦(沼津明治資料館)
伏見 弘(古文書研究会)
藪原敏吏(取手市史編纂委員会)
鈴木貞二(古文書研究会)
馬原浩一(ニフティー歴史フォーラム)
鈴木瑞枝(館柳湾研究家)
館 速雄(館家御子孫)